

**BS11独占放送！**

江口洋介 35周年記念ライブ BE HERE NOW ～ 35th Anniversary ～ Yosuke Eguchi Live 2023 9月24日(日)よる7時00分放送

この度、日本BS放送株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 近藤 和行、以下「BS11」)は、
9月24日(日)よる7時00分より、「江口洋介 35周年記念ライブ BE HERE NOW ～ 35th Anniversary ～
Yosuke Eguchi Live 2023」を放送いたします。

俳優として、そして歌手として、今なお第一線を走り続ける江口洋介。デビュー35周年という節目を迎え、自身初となるBillboard Live TOKYOで、およそ3年ぶりのライブを今年6月に開催しました。

この番組では、当日のライブの様を中心に、江口自身のコメントも交えて**BS11独占**でお届けします。

俳優・江口洋介とはまた違った顔を見せる“ミュージシャン・江口洋介”を堪能できる熱いライブにご期待ください。

<江口洋介 35周年記念ライブ BE HERE NOW ～ 35th Anniversary ～ Yosuke Eguchi Live 2023 >

- 放送日時:9月24日(日)よる7時00分～8時00分
- 出演:江口洋介(Vo.&Gt.) サポートメンバー:真壁陽平(Gt.)、TOKIE(Ba.)、
吉田佳史(Dr.)、Sin(Key.)
- 歌唱曲:「愛は愛で」「恋をした夜は」「夢ゴコチ」and more

<https://www.bs11.jp/entertainment/yosuke-eguchi-live2023/>



※この放送に先駆けて、昨年12月に開局15周年特番として放送しました「御茶ノ水 GUITAR SPIRITS！」を
9月20日(水)よる7時より再放送いたします。この番組はBS11で初めて江口が番組MCを務め、色んなゲストを
迎えて音楽談議に花を咲かせゲストとの豪華セッションも実現しました。こちらも合わせてお楽しみください。

★江口洋介さんへのインタビューを、次頁に掲載しております。



BE HERE NOW

Yosuke Eguchi

デビュー35周年を一言で言うと？

江口さん: あっという間でしたね。35周年という日々自体はすごく長く感じますが、「この年にこういうことやってたな」とか、「アルバム出してたな」とか、思い出しました。

いろいろなお仕事を重ねていく上で、気が付いたら到達していた、という感じですか？

江口さん: 本当にそうですね。「〇〇年記念」というのはちょっと苦手で、今まで節目ごとに特に何かしていなかったんですけど。デビュー当時から数えて、役者だけしかやっていない時期もありましたけど、この35周年が、自分にとってもファンの人たちにとっても、今までを振り返る良いきっかけになればいいなと思って、新しい楽曲も何曲も作って、この1年で音楽的にビルドアップできたなと思います。

自分にとって音楽活動とはどんな存在ですか？

江口さん: なくてはならない存在ですね。ほぼ全部自分が作っている昔の作品をうまく歌えない時期もあったんですけど、今ライブで歌うとすんなり歌えることがあるんです。時間が経っても、演奏して新たに命を吹き込むと、その作品が形を変えてその歳相応で結構歌えるんだなって気づかされることもありました。

レコーディング中は俳優業をちょっと空けて、また戻った時に、とても神聖に感じたりしますし、逆に、俳優業でいろんな役をやっている時に、一気に音楽に足を踏み入れると、すごく体が浄化されるという感覚もあるんです。メンバーと一緒にリハーサルをしている時にセッションの感覚が、お芝居でも活かされるというか、感覚的にすごく良くなるんですよね。本当に音楽が好きでたまらないというのがありますけれども、これからも長く音楽と付き合いたいなと思います。

自分で作曲された昔の曲を今歌うと恥ずかしいみたいなことはありますか？

江口さん: そういう時期はありましたね。ライブで歌うイメージが全然できない時期もありました。デモテープを何年に1曲、2曲と作り溜めていて、その時はこの歌だ！と思っていても、今になると、その時の自分の曲であって、今の自分の曲じゃないみたいな。ただ、昔の曲もその時ライブに足を運んでくれた人たち思い出でもあるし。その曲を作った時の自分のこともパッと思い出しますね。そんなことを思いながら、時間を超えて今ライブで歌って、それに対してお客さんが反応してくれると、時間を飛び越えたな、という感覚はありますね。ギターに一生懸命向かっていた時の自分を思い出させてくれます。音楽って歳をとらないなとすごく感じています。

今回ライブは3年ぶりでしたが、久々のステージで、また初めて立ったBillboard Live TOKYOのステージで感じたことはありましたか？

江口さん: (5月のSpotify O-WESTに続いて)、次はビルボードで、と決まったときに、アコースティックやジャズのイメージがあって「ロックは大丈夫かな？」と思って、実際に会場を見に行きました。見た後に、じゃあO-WESTはロック、ビルボードでちょっとアコースティック、みたいに分けようと考えたんですが、実際音出しを始めると、リハーサルをやっていたにも関わらず、なんか薄い音じゃ物足りなくなってきた、だんだんビルボードっていうのを忘れてしまっていました。多分前の人は結構アンプの音デカかったんじゃないかな、と思いながら(笑)。けど、それがちょっと皆さん楽しくなってくれたみたいで、最初は何となく座ってお酒を飲みながら料理も食べながら見ていたのが、いつの間にかスタンディングライブみたいな感じになって大いに盛り上がってくれました。音楽って、始めちゃえばどの空間でもその色に染まるんだなという感じはしましたね。

会場自体、あまりやったことのないお客さんとの近さで、インストアライブとか昔よくやっていた頃を思い出しました。でも座ってゆったりするのも気持ちよかったし、すごくやりやすい場所でした。本当に来ている人たちの顔が全部見えるんですよ。だからすごくエネルギーをもらえるし、こちらもエネルギーを伝えられるし、逆に生々しいと思いますけどね、見ている人たちからすると(笑)。会場自体が大人の雰囲気、スタンディングでぎゅうぎゅう詰めで苦しそうに見えても、ちょっと空間もあって、疲れたら座れるみたいなことも出来るし、トークがあってもなくても全然問題ないし。来てくれる人のためにすごく特別な時間を提供できる空間でした。

(次頁へ続く)

衣装もロックTIにジャケット、でしたね。

江口さん:色々な世の中のしがらみ、色々な制約みたいなことから外れることが基本的にはロックな気分だと思ってます。来てくれる人もそこを味わってもらえたのであれば嬉しいですね。ちょっとドレスアップはしているんだけど、ちょっとだけはみ出しちゃう、みたいな。

BE HERE NOW
Yosuke Eguchi

今年はサブスクでの楽曲解禁だとか、こういったライブ、音楽番組出演とか、これからの音楽活動を期待させるような活動が増えていますが、ファンの皆さんにメッセージをお願いします。

江口さん:せっかく35周年っていうことを何か1つビルドアップしたいですね。配信を始めたり、ライブの数も増やしているので、これを機に音楽的な匂いをいっぱい届けようと思ってます。音楽をしばらくやっていない時期もあったんで、俳優として見てくれている人がほとんどだと思うんですけど、「江口こんなライブやってたんだ」みたいな、一緒に歳を重ねてきた仲間というかファンの方々への、音楽のメッセージを発信していきたいですね。

配信とか、サブスクとか、昔とは状況が全然違いますけど、実際レコーディングやると一緒、一緒！自分たちの音をどういう風に届けようかなって一生懸命考えてます。今もレコーディングを続けていますが、僕の好きなアメリカの西海岸的なロックにヨーロッパテイストを意識しつつアレンジしながら形にして作品をリリースして、「江口って、俳優だろ？」って思っている人たちに、「俺にとっては、音楽は絵を描いたり写真を撮ったりするのと一緒になんだよ！」って知ってほしいですね。

是非これからも期待しててください！期待は裏切らないので！



プロフィール

1986年俳優デビュー。その後「ひとつ屋根の下」や「救命病棟24時」シリーズなど、数多くのドラマ・映画に出演。1988年、シンガーソングライターとしてデビュー。「恋をした夜は」「愛は愛で」などがヒットするも1999年以降は俳優業に専念。2016年に下北沢で約20年ぶりのライブを行い、音楽活動を再始動させた。

御茶ノ水 GUITAR SPIRITS !



- 放送日時: 9月20日(水)より7時00分～8時58分
- MC: 江口洋介
- ゲスト: 織田哲郎、キダモティフォ(tricot)、根本要(スターダスト☆レビュー)、春畑道哉(TUBE)、弓木英梨乃、Rei、和田唱(TRICERATOPS) ※五十音順
- 番組内容: 音楽雑誌『ギター・マガジン・レイドバック』編集部バックアップのもと、楽器を愛する人たちに音楽の魅力をお贈りします。ゲストに若手から大御所のギタリストを招き、憧れのミュージシャンや楽曲についてなど、音楽談義に花を咲かせ、そしてゲストとの豪華セッションも! 「もう一度ギターの魅力を発見する」番組です。

<https://www.bs11.jp/entertainment/ochanomizu-guitar-spirits/>



BS11は、質の高い情報を提供することで、人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します。

